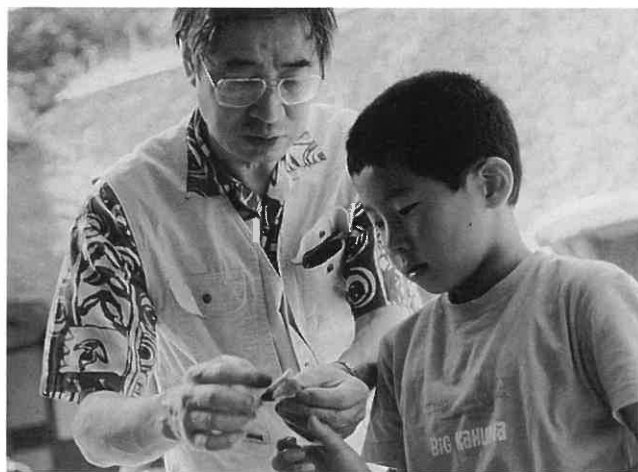


鬼	北上市立	館
	の	
だ	よ	り
第15号		



～工作进行指導する柘久保氏～



### 楽しい夏休み 皆でピースだじゃい！

去る7月28日(土)～30日(月)みちのく民俗村において開催された「キャンプだ！集まれ鬼っこわんぱく隊」は市内11の小学校から35名の参加がありました。(参加できなかった子ゴメンなさい)

「原始人になってみよう」では石器を使って調理し、古代体験してみました。「和紙の染色・野草を使った工作」はキャンプのよいおみやげになりました。「肝試し・ナイトハイキング」では、(蚊に食われましたが)ケガ人や脱落者もなく楽しんでくれました。その他、銭湯体験などのプログラムにも子供たちは一喜一憂。参加した子は、共同生活で仲間となり、来た時の不安げな顔が帰りはどの子もイキイキしていました。

来年は何やろうかな～？

(写真は民俗村入り口でのお別れスナップです)

# 写真でみる 鬼の館上半期

## ◆企画展 14◆ 5/20～7/8

宗形 <sup>さとし</sup> 慧 写真展 ～鬼神のころ～  
パネルを含め、63点の写真作品を展示しました。  
展示図録は、絵葉書としても使用できるタイプで



す。16点をピックアップし、鬼の登場する祭行事を紹介しています。

B 5 変型版  
一部1000円  
(税込み)

## ◆鬼っこわんぱく講座◆ 全8回講座

5月5日は、こどもの日 わくわくイベント。  
子ども達が共同作業で作ったこいのぼり。フワ  
リッと浮かぶと歓声が上がりました。

鬼に変身・はりこ面の色付けも大盛況でした。



## ◆鬼ッズプレイミュージアム◆ 随時

鬼剣舞・かっぱのはりこ面が作れます。

じっくりと取り組みたい親子に人気です。



## ◆特別展◆ 7/22～9/16

収蔵資料展 ～神々の仮面～  
収蔵資料・寄贈・寄託を含め23ヶ国83点を展示。  
人間の最終的なよりどころとしての精神信仰。  
これら精神信仰に使用され、神として崇められる  
仮面を紹介しました。

## ◆第8回大乘神楽大会◆ 6/10

9団体により18演目を披露しました。幕あいには、  
「和賀の大乘神楽」として4団体へ県指定無  
形民俗文化財の伝達式も行われました。



## ◆芸能公演◆

毎月第4日曜日午後1時30分(12月～2月までを除く)

東北を代表する民俗芸能「鬼剣舞」を中心とした公演です。勇壮果敢な舞いをご覧ください。



## ◆鬼学講座◆ 全6回講座

本年度は、女性陣を講師にむかえ、さまざまな  
ジャンルから見た鬼の姿を追求してきました。

■ 新館長 就任 ■

ごあいさつ

館長 力丸 光雄



前館長門屋光昭氏の後を受けて、4月から就任いたしました。94年の開館以来、運営協議会にかかわって参りましたので、まったく勝手が分からないわけではありませんが、何分にも館長としては素人ですので、みなみなさまのご支持、ご支援が必要です。何とぞよろしく。

幸い、前任の名館長が築かれた立派な軌道が敷かれてあり、粒選りの館員が揃っておりますので、その点は安心しております。この上は日本の、いや世界の「鬼学」Oniologyのセンターたるべく、館の一層の充実を図りたいと存じます。

鬼が笑い出しそうな抱負を樓樓述べることは手控えますが、「鬼が出るか仏が出るか」、一路前進の決意です。

桜も蕾の頃に仕事を始めたのに、早や雪の舞う季節になってしまいました。ごあいさつが遅くなりましたこと、お許しください。

経歴：

1930年	福島市生まれ
1953年	東北大学理学部化学科卒業
1953～60年	福島県立医科大学で研究
1956～58年	(現職のまま) 米国ウィスコンシン大学大学院に留学
1960～64年	東北大学医学部で研究
1961年	医学博士
1964年	岩手医科大学助教授(教養部)
1965～98年	同教授、定年退職、名誉教授
1991～94年	宮沢賢治学会理事
1997～99年	同上(再任)
1999～2000年	同代表理事
1988～90年	日本仮面研究会会長
1993年	和賀町「鬼と平和の里づくり推進委員会」委員
1994～2001年	北上市立鬼の館運営協議会会長
2001年	同館 館長

鬼・おに・Oni

中国語で「鬼」は、「死者の霊、幽魂」、いわばユーレイである。もっとも「鬼子」というと日本の(恐ろしい)「おに」に近いが、「鬼的館」は、「お化け屋敷」ともとられかねない。

一方、SatanとかDemonは、唯一絶対の神 God に敵対するワルだから、「おに」の概念とはずれがある。所詮「おに」は「おに」であって「おに」以外の何ものでもない。

Oniということばをsushi並みに国際語にして、行く行くは外国の辞書に、oniが載るようにしたいものである。なお、中国語で書くと「奥尼」である。

企画展15

# エミシ展

～北の鬼の復権～

平成13年10月7日(日)～11月25日(日)

奈良・平安時代から鎌倉初期にかけて、奥州みちのく岩手の歴史には激動の変革期があります。日本書紀にも記されているように、東(あづま)のエミシは律令国家に謀反する民「まつろわぬ者」とされ、「陰陽思想」では東北が鬼門にあたることから「おに」とされて迫害を受ける道をたどることとなります。

これら謂われなくして滅ぼされた民「エミシ」の復権を願い、現在お寺や神社に奉納され各地に

点在する各種民族資料や、仏像・神像などの歴史資料を借用して展示公開することにより「エミシ」の歴史は本当に「おに」かを追求するものです。

「エミシ」に対するヤマトの視点と「エミシ」がみるヤマトへの視点の違いを数々の資料から感じとっていただきたいものと考えます。



## ＝NEWS＝

応募総数119通

地域活性化事業 おに がけだいら  
創作民話 「鬼翔平」

北上市には、昭和63年に「鬼と平和の里づくり事業」の一端として公募から名付けられた入畑ダム周辺地名「鬼翔平」があります。

この事業は「鬼翔平」の地名を生かした創作民話を広域的に募集し、鬼絵本化することにより読み聞かせをとおして、子どもからおとなまで楽しみながら地域の民話として伝承し、地域里づくりの活性化につなげようとするもので、7月10日より募集を受け付けていました。9月11日の締め切りまでに119通の応募がありました。

県内	38点(うち市内13点)
県外	79点
その他	ドイツ1点・オーストラリア1点
応募総数	119点

今後、選考される最優秀作品1点は、平成14年3月に北上市の、鬼翔平の鬼絵本として登場する予定です。

どんな絵本ができあがるかお楽しみに…

## 第8回 全国鬼サミット 柳田村で開催

今回の参加団体は、北は登別市の地獄祭りから南は鹿児島県末吉町の鬼追い保存会等13自治体が日本南北のほぼ中心である猿鬼伝説の街・石川県柳田村に集まりました。

サミット会場の中央には当日小学校の児童が制作した猿鬼(2m)2匹が仁王立ちに展示されていて鬼サミットらしさが演出されています。



開会式で宮本康一大会長から「地域の文化発信、新たな創造の契機にしていきたい。」とあいさつがあり、つづいて山口彦衛村長から「鬼は鬼でなければ磨けない」と歓迎の言葉がありました。

協議での発表は、地域作りの実施とこれからの展望と題して、参加団体5分以内の持ち時間での発表となり、北上市は力丸館長より、「市民憲章の鬼すむ誇り」「みちのく芸能まつり」「福豆節分会」「鬼翔平民話の公募」などを紹介し最後に、「鬼はデヴィルでもデーモンでもない、鬼は鬼である。」とアピールしました。

平成14年度の開催地は新潟県新穂村に満場の拍手により決定しました。

# 博物館実習指導

当館では、学芸員資格を取得する方々のために、例年その指導にもあたっています。

今年は、3名を受け入れての実習指導となりました。

帝京大学 理工学部情報科学科

3年 千田 圭太

8月8日をもって、私の博物館実習が終了したわけですが、今回の博物館実習で私は、様々なことを学び、そして様々なことを得ることが出来ました。大学では、博物館についてのことを、いろいろ学んで来たつもりでしたが実際に、博物館の学芸員業務をこの鬼の館で教えてもらってみると、大学では習うことの出来なかったことが様々ありました。例えば、資料の取り扱いについての実習や、資料保存の方法などについてです。資料一つ一つについても扱い方がそれぞれ違っており始めは、それぞれの方法を覚えるのが大変でした。また今回の実習では、鬼の館だけではなく県内の他の博物館にも見学させて貰いました。始めは学芸員というと、何処の博物館でもいるものだと思っておりましたが、実際は学芸員のいない博物館もあることを知りました。意外だったのは宮沢賢治記念館に学芸員がいなかったことです。その他、この鬼の館で博物館実習をすることで、鬼のこともより深く知ることができました。この実習を通して、一番印象に残っているのは、自分の企画展の企画を立案する実習です。私はこの企画で「節分」をテーマにして企画書を作成しました。何故このテーマにしたかという、どうして節分には鬼がでてくるのか、また、この風習は何処からきたのか興味があったからです。実際に企画展を出来るわけではありませんが、このようにひとつのテーマに向かって企画書を作成するのはとても楽しかったです。最後になりましたが、担当してくれた鈴木先生を始め、鬼の館の皆さんにはいろいろお世話になりありがとうございました。

東北生活文化大学 家政学部家政学科

4年 横沢 一毅

私は8月2日から8日までの6日間、博物館実習をさせて頂きました。私は今、仙台の大学で家政学を専攻しています。中学校・高校の家庭科教員を目指しています。今回の実習を通して、将来自分が教員になった時に、生徒達に、博物館の機能やすばらしさを伝えられるぐらいの知識と技術を身につけたいと思って臨みました。

実を言うと私は北上市に住んでいながらも「鬼の館」には一度も足を運んだことがなく鬼のことなど、何一つ知らない者でした。ところが実習初日、学芸員の鈴木先生から正面玄関のホールに飾られている大きな、鬼の面の説明を聞いたところによると、東北の鬼は、関西や関東の人々が持つ、恐ろしい人に危害を加えるものではなく、その土地に住んでいる人たちを見守る守護神のような温かく優しい存在であるという話を聞いて、私はかなり鬼に対するイメージが変わりました。また鬼剣舞の「剣舞」というのは、仏教用語の「反閻（地下に住む悪霊たちが地上に出て来ないように、四方を踏み固める）の意味を知り、感動しました。

これらの実習を通して、より鬼を身近に感じる事ができました。また来館者の方々により展示物を身近に感じてもらえるか、より見易く分かり易くするにもどう工夫したらよいか学ぶことができました。このような貴重な体験ができたのは、館長の力丸先生をはじめ副館長、学芸員の鈴木先生や、職員の方々の手厚い御指導のおかげです。心から感謝申し上げます。

東洋大学 文学部史学科

4年 小原 祐

学芸員資格取得のための学習の一環として、8月2日～15日の日程で、ここ北上市立鬼の館で館務実習をさせて頂きました。大学での座学・理論学習に対し、館ではより体験的・実務的な作業を通して、博物館に関する様々を学習させて頂きました。来館者への応対業務、館内の電球交換、イベント会場の設営にいたるまで実に様々です。言い換えれば、それだけのことを、学芸員をはじめ勤務員は日夜こなしているということになります。最終日の2～3日前からは、館のエントランスの一角をお借りして模擬展示の製作と展示をさせて頂きました。（展示自体は、館の御厚意で実習最終日から1週間の継続を頂きました。）また、館長からもこの館のテーマである「鬼」について、御講義を頂きました。

この実習において学んだことは、座学では決して実体感し得なかったであろう、博物館の「現実」です。起案決裁、書類作成、雑務…、そこには「理想」通りには進まない、外見からは知り得ない、生々しい「現実」が横たわっていました。一方で、少しでもよい展示を、よい館を目指すとする館の熱い志、力強いエネルギーも感じました。「理想」と「現実」の融合という永遠の課題。しかし、だからこそそのやりがい、私は感じました。最後に、御多忙の中、館務実習を御快諾頂き、様々と御指導を下さった力丸館長、鈴木学芸員をはじめ館の関係者の皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

創作実習の様子 ▶



## 鬼学ノート

民間の鬼

### 「北上市 岩沢近辺の鬼の話」

兎玉 智江

#### 鬼の存在

子供の頃は、鬼の話になると、昔話の中の人を食う鬼婆、人をさらう鬼婆というイメージが常にあり、恐ろしさがぬけなかった。

幼女の頃、母の実家である北上市岩沢下仙人に住んでいた。大勢の人達の中での生活であったから、何かにつけ、「鬼が来るよ」「鬼婆を見て来た」と言っただけは、叔父さん達に脅かされた。だから、鬼は、いつも身の回りに居て、自分達を見ているような錯覚を持っていた。一人で遊びへ出かける時も、トイレへ行く時も、留守番の時も周囲の鬼の存在が気になって恐かった。

羽山あたりには、いつも鬼が居ると思っていたし、見知らぬ人も鬼と同じように怖いと思った頃がある。

北上市民会館で鬼のシンポジウムがあった時(1992年2月15日)、サンコンさんは、「僕は初めて白人を見た時、鬼だと思ってびっくりした」と言ったのを思い出した。



1992年2月15日 鬼のシンポジウム  
「鬼の町北上へ、また来てね」智江  
「鬼、大好きだからまた来るよ」サンコン  
「ワハハハハハ……」サンコン、智江、麗子

#### 鬼との出会い

四、五歳の頃であった。寒い雪の晩、今日は怖い鬼が来るから早く寝るように言われて姉と妹と三人で一緒の布団で寝た。しかし、私は、鬼の事

が気になりねむれないでいた。

「ガワー、ガワー」と遠くの方から、うなるような声が出て、大声で土間へ入って来たのがわかった。

「ワラシエド(子供達)寝てしまったがらまんと、あがってくなんしよ」と祖母の声がする。私は起き上がり見ると祖母は、酒をついでやっている。その鬼達は、大きなケラで身を包み、頭のかぶり物をとりはずすと、人の顔であった。私は母の側に座り、その男達三人を見ていた。母がいるから恐くなかった。次の年は隣の家だなど話をして、お酒をのんで帰った。

鬼の話ばかりではなく、鬼とのふれあいも知らぬまに、子供の頃からつきあわされて育っていた訳だ。岩沢の下仙人部落では旧正月1月15日に、モッコの行事が昭和20年頃には、あったという事実が調査済みである。(1989年北天塾三号に本人掲載)

#### もんがくばら

ある日、肺病でやせこけていた老婆がいなくなり、自分から身をかくしたのか、追いやられたかは定かではないが、死んで、この世にはいないと思っていたその老婆が、ひょっこり元気な姿で帰ってきた。皆は驚き、どうやって生きていたのかを聞きましたところ、羽山(岩沢)に居て、もんがくばらの根を食べて生きていたということだった。

もんがくばらはどういう植物かを聞きました所、丸い葉でつる状にトゲがあり、緑の小さな実は秋になると赤くなり……と、ここまで聞けば「山帰来ばら」と同植物だという事が私にはわかった。

「山帰来ばら」は「山鬼来ばら」とも言われているように、死んだと思っていた老婆が帰って来る訳だから鬼のように怖い存在だった訳だ。

#### 山帰来ばら

昔の事だが本当の事である。

凶作が何年も続き、食物がとれず、野草や木の葉も取りつくし、食物がなく、皆やせて病気になるて行くばかりでした。60歳になれば老人は山へ捨てる婆捨山の話は聞いた事はあるが、北上山系の村では60歳にならないのに病気の老婆たちを片っぱしから山へ捨てたという事だ。

捨てられた老婆達は、山の物は食べられる草や実はあらゆる食べつくし、何も食べる物がなく、死んで行く者が次々に続いた。自分の死も、今日か明日かと思っていた目もろくに見えない一人の老婆が一本のつるを見つけて、その根を掘り始めた。老婆は山いものツルとまちがえたようだ。自分の手は垢切れ血が流れ、のびた爪は剥れ血を流しながらも掘りつづけ、ようやく太い根元にたどりついた。老婆はその根を必死にかじりつづけたということだ。元気になって行くその老婆を見て、まねをして掘り、食べた。皆丈夫な体になり、自力で里へ帰り、畑を耕して北辺、山村の基礎を作ったという事だ。それ以来、山帰来ばらとその植物に名前がついた。「東北のおなごたち」一条ふみ著を読んで山帰来ばらの事を知りました。）

生まれたばかりの赤子を捨てるばかりではなく、弱っていく大人までも捨てなければならぬという極限まで来た時、人は涙をこぼしながら鬼となり、皆もそのようにするからといって責任逃れをしたにちがいない。そして、ある所では婆捨山のように60歳以上の老人は山へ捨てるという約定まで決め、政策されたのだ。

しかし、ここから問題なのだ。そのようにしたからといって良い事ばかりある訳がない。ましてや死にそうな老婆が元気になる山から帰って来たら、ゆう霊か、鬼の化身としか思わないだろう。理解するまでに時間がかかり、恐さと怖さで全身で震えたにちがいない。そういう事が何年も前からあって、今、私達は恐ろしい鬼婆がやって来ると脅かされて、いい子になるように仕向けられたのだ。



羽山(湯殿山 599.9m) 岩沢下仙人部落より望む

「四季の山野草」(緒方出版)より、山帰来ばらについて抜粋。

「山帰来の名の由来は、その昔、梅毒にかかり、村を追われた男が、山でこの薬草をのんで治り、山より帰ってきた故事にもとづくという。事実、わが国では、古くより諸瘡腫の治療薬としてその根茎を用いている。」とある。

できごと Oni Museum

～新聞の見出しより～  
H13. 上半期

- 「鬼の館」にも来てみてね  
リーフレット観光用に作製  
周辺マップ盛り込む [岩手日日 4/6]
- 新館長に力丸さん  
北上の「鬼の館」 [岩手日報 4/7]
- 東北の民族にスポット  
鬼の館13年度事業  
“心の宝”集めた特別展も [岩手日日 4/17]
- 芸能公演を定期開催  
北上市立「鬼の館」  
きょうから延べ11回 [岩手日日 4/22]
- 躍動の舞 観衆を魅了  
今年度初の芸能公演  
岩崎鬼剣舞が熱演 [岩手日日 4/23]
- 美しい調べにうっとり  
鬼の館で管音楽会 [岩手日日 5/1]
- こどもの日イベントにぎわう お面作りが人気  
鬼の館親子連れで楽しむ [岩手日日 5/6]
- 北上市・鬼の館の新館長 力丸光雄さん [岩手日報 5/9]
- 「鬼の館」入館者減る  
昨年度初の3万人台割れ [岩手日日 5/10]
- 写真で探る鬼の精神像  
20日から企画展  
宗形氏の作品紹介 [岩手日日 5/16]
- “幽玄の舞”たっぷり  
来月10日北上で大乗神楽大会 [岩手日日 5/31]
- 「鬼神のこころ」展示図録を発行  
民俗芸能、伝統行事の魅力たっぷり [岩手日日 6/12]
- 伝承の誓い新た  
県文化財指定 4団体に認定書伝達 [岩手日日 6/13]
- “幽玄の舞”たっぷり熱演  
神楽ファン沸かせる 6時間18演目を披露  
9団体が出演して「大乗神楽大会」 [岩手日日 6/13]
- 鬼の創作民話を全国募集  
北上市教委「怖くない良い鬼を」 [毎日新聞 6/14]
- 面作りに“悪戦苦闘”  
江釣子公民館「わんぱく学園」が開講 [岩手日日 6/15]
- 女性の視点で探る  
鬼学講座開講 スリランカの習俗も紹介 [岩手日日 6/18]
- “鬼翔平”素材に絵本製作へ  
創作民話で地域おこし 北上市「鬼の館」  
全国から作品を募集 [岩手日日 6/27]
- 心温まる創作民話を  
鬼の館が公募採用作品は絵本に  
入畑ダム周辺が題材 [岩手日日 7/7]
- “鬼”をテーマに創作民話  
鬼の館 10日から作品受け付け [岩手日日 7/8]
- 勇壮な鬼剣舞に驚き 鬼の館じっくり視察  
中国文学芸術連代表団6人が北上を訪問 [岩手日日 7/23]
- 仮面で見ると神々の姿  
北上・鬼の館特別展開幕  
国内外の83点を展示 [岩手日日 7/24]
- 口内鹿踊りが出演へ  
あす「鬼の館」で芸能公演 [岩手日日 8/11]
- 特別展 神々の仮面  
世界の“顔”が湛える自然への慈しみ、深い祈り [リビング 8/4]
- 鞍馬天狗から輪軸まで  
実習生が「かめん」展 [岩手日日 8/19]
- 地元の応募呼び掛け  
鬼テーマの創作民話 8月末まで30点余  
北上・鬼の館 [岩手日日 9/3]

# 鬼の里だより

## ◎企画・展示

10月7日(日)

〈企画展〉エミシ展 ～北の鬼の復権～  
(～11/25)

12月11日(火)

〈特別展〉～市民の心のたからもの展～  
(～2/24)

3月10日(日)

〈特別展〉収蔵資料展～新収集資料から～  
(～5/6)

## ◎鬼っこわんぱく講座

10月7日(日) おに面づくり①

10月21日(日) おに面づくり②

1月6日(日) 鬼剣舞体験

1月13日(日) 鬼剣舞体験



1月20日(日) 鬼剣舞体験

1月27日(日) 鬼剣舞体験

2月3日(日) 鬼剣舞発表会・閉講式

## ◎鬼学講座

10月27日(土)～28日(日) 移動研修  
～史跡から見る回想 エミシ～

案内・講師 北上市立鬼の館館長 力丸光雄氏

11月18日(日) 館長講話

～鬼の手形～

閉講式

## ◎芸能公演

10月28日(日) 相去鬼剣舞保存会

11月25日(日) 谷地鬼剣舞保存会

3月24日(日) 滑田鬼剣舞保存会

# 利用案内

**開館時間** 午前9時から午後5時まで。  
なお、入館は午後4時30分まで。

**休館日**

- ・月曜日
- ・国民の祝日の翌日  
(土・日・月曜日の場合は翌日)
- ・館内整理日(11月27日～30日)
- ・12月28日～1月4日

## 入館料

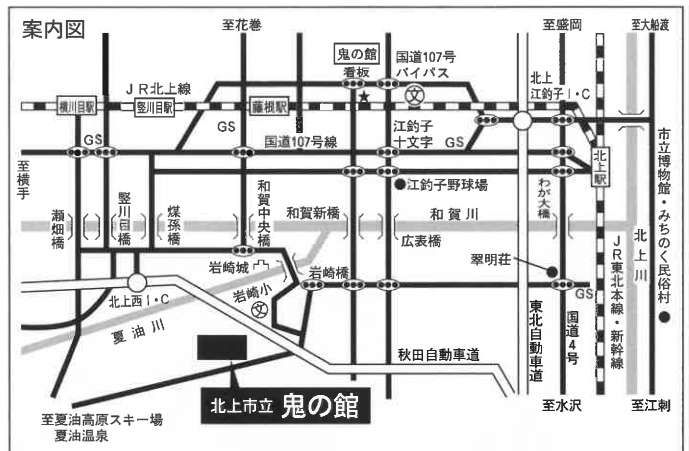
一般	300円 (250円)
高校生	200円 (150円)
小中学生	150円 (100円)

( )内は20人以上の団体料金。  
下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・第2、第4土曜日
- ・社会体験学習のしおりを持参した時
- ・学習活動で申請利用する時

## 交通案内

- ・JR北上駅西口よりバスで25分。  
煤孫経由横川目行・瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。
- ・JR北上駅より車で20分。
- ・東北自動車道「北上江釣子I.C」、秋田自動車道「北上西I.C」よりともに車で15分。



## 北上市立鬼の館だより

第15号 2001.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地

TEL 0197 (73) 8488 FAX 0197 (73) 8508